

今週（8月1日から8月5日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、週を通して大きな変動がなく、落ち着いた展開に終始した。日銀当座預金残高が295～300兆円程度と高水準で推移する中、無担保コールO/Nは概ね▲0.05～▲0.02%のレンジで取引された。引き続き地銀・証券業態の調達意欲は高く、一部では0%での出会いも見られた。無担保コールO/N加重平均レートは▲0.04%前後での推移となった。ターム物に関しては、マイナスレートでのオファーが薄くなる中、一部地銀業態で調達レートを切り上げた先が見られたことで、1W～2W物で▲0.02～0%の出会いが中心となった。

固定金利方式の共通担保資金供給オペは、4日に2W・8,000億円、5日に3M・5,000億円がオファーされた。4日オファー分は2,040億円（期落ち分4,790億円）、5日オファー分は150億円（期落ち分80億円）と全て札割れとなった。

●レポ市場

今週のO/N GCは▲0.09～▲0.07%近辺での取引が中心となった。週初から4日のT/N(5-8)までは業者の在庫が少ない中、投資家の売物が多く、▲0.09～▲0.08%近辺での出会いとなった。4日のS/N(8-9)は、TDB3M物発行の影響で、レートは▲0.07%近辺に上昇しての出会いとなった。5日のS/N(9-10)は利国、短国の買入オペが通知された影響でレートは小幅低下し、▲0.085～▲0.075%での出会いとなった。投資家の資金調達意欲が厚いことで、日銀買入オペが通知されても玉の枯渇にはつながらず、大幅なレート低下は見られなくなっている。

SCIは個別銘柄では5Y125～128、10Y336～343、30Y48～51などのカレント銘柄近辺にビッドが多くみられた。

●短国市場

今週の短国市場は、先週末の日銀金融政策決定会合を受け、債券相場全体が軟調になる中、様子見姿勢の強いマーケットとなった。

1日には、短国買入オペが前回比2,500億円減額の1兆2,500億円でオファーされた。決定会合を受け、小甘い決着も一部で予想されたものの、業者の在庫が軽いこともあり、平均落札利回較差+0.012%、按分落札利回較差0.000%の落ち着いた結果となった。4日には3M物の入札が実施された。9月にも予定されている金融政策の「総括的な検証」に対する予想が錯綜する中、慎重な応札姿勢を反映し、平均落札利回▲0.2100%、按分落札利回▲0.1844%と、按分落札利回は4月以来となる▲0.10%台での決着となった。セカンダリーは▲0.24～▲0.21%での推移となった。5日は短国買入オペが1兆5,000億円でオファーされた。平均落札利回較差+0.014%、按分落札利回較差▲0.002%と1日のオペに続き、品薄を反映した落ち着いた結果となった。

●CP市場

今週のCP市場は、月初週にあたるため、入札ベースでの償還額は3,000億円程と少なかったものの、電機・商社業態等から大型発行が実施され、入札ベースの発行総額は5,000億円強となった。市場残高は週を通して大きな変動は無く、15兆円弱の水準で推移した。発行レートに関しては、マイナス金利での応札姿勢がほぼ見られなくなった他、発行量の増加している一部銘柄では若干レート上昇がみられた。ただ、依然として足許の運用ニーズは底堅く、a-1格相当銘柄は概ね0%近辺での発行となった。

CP等買入オペは4日に3,500億円でオファーされた。平均落札レート0.000%、按分落札レート▲0.001%と、業者の売却ニーズが強いことから、前回からほぼ変化無しの結果となった。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（%）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均・%）	東京レポレート(翌日 物・T+1スタート・%）	日銀当座預金残高 （億円）
8/1（月）	16,635.77	△ 0.140	102.44	△ 0.040	△ 0.087	3,008,700
8/2（火）	16,391.45	△ 0.065	102.45	△ 0.039	△ 0.086	2,996,200
8/3（水）	16,083.11	△ 0.090	101.25	△ 0.041	△ 0.086	2,971,200
8/4（木）	16,254.89	△ 0.080	101.35	△ 0.038	△ 0.078	2,950,300
8/5（金）	16,254.45	△ 0.100	101.25	△ 0.037	△ 0.072	2,961,400

来週（8月8日から8月12日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
8/8 (月)	決定会合における主な意見(7月28,29日分 8:50) 6月の国際収支(財務省所管・日銀作成 8:50) 6月の特定サービス産業動態統計速報(経済産業省 13:30) 7月の景気ウォッチャー調査(内閣府 15:00)	TB6M 35,000億円 8/10発行			7月のFRB 労働市場情勢指数
8/9 (火)	7月のマネースtock(日銀 8:50)	TB2M 発行中止	30Y 8,000億円 8/12発行	エネルギー 対策借入 6,000億円 8/19借入	6月の米卸売売上高
8/10 (水)	6月の機械受注統計(内閣府 8:50) 7月の企業物価指数(日銀 8:50)	TB3M 44,000億円 8/15発行			7月の米財政収支
8/11 (木)	山の日				
8/12 (金)	6月のマネタリーサーベイ(日銀 8:50)	交付税借入 10,500億円 8/23借入			7月の米生産者物価指数 7月の米小売売上高 6月の米企業在庫 8月のミシガン大消費者信頼感指数速報 4-6月期のユーロ圏GDP速報値

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
8/8 (月)	800	▲ 3,500	▲ 2,700	全店共通 CP買入 国債補完	▲ 4,800 ▲ 200 500	2,000	▲ 2,500	▲ 5,200	TB3M発行▲44000償還43700 10Y物価連動発行▲4000
8/9 (火)	2,000	▲ 5,000	▲ 3,000	全店共通 CP買入 国債買入 短国買入	▲ 100 3,500 12,500 15,000	200 3,500 12,500 15,000	31,100	28,100	交付税借入▲10500期日10500
8/10 (水)	0	▲ 16,000	▲ 16,000				0	▲ 16,000	TB6M発行▲35000償還19800
8/11 (木)	山の日								
8/12 (金)	▲ 1,000	▲ 8,000	▲ 9,000	全店共通	▲ 100		▲ 100	▲ 9,100	30Y発行▲8000 交付税借入▲10500借入10500
週 間 合 計	1,800	▲ 32,500	▲ 30,700	—	▲ 4,700	33,200	28,500	▲ 2,200	

8/8は日銀予想、8/9以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、主な資金不足日として、10日のTB6M発行超過が挙げられる。当座預金残高は大きく変動しないと見込まれる。積み最終日が近くなり、O/N～1W以内の調達意欲が高いと予想される。

短国市場では8日に6M物、10日に3M物の入札が予定されている。債券市場全体が軟調になっていることから、慎重な応札姿勢が予想されるものの、6M物に関してはオペ見合いの買いが入ると予想されることから、レートは然程上昇しない可能性も考えられる。CP市場では、事業法人が夏季休暇を目前に控えていることから、発行市場の動向に注目したい。

主要なイベントとしては12日の4-6月期のユーロ圏GDP速報値などが挙げられる。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入